

校歌制定

創立30周年記念誌、2代校長 相原正雄 先生の寄稿に、校歌を制作するに至った経緯が書かれています。

バスで遠足に行った時、ガイドが「校歌を歌いましょう」と言いますと「うちの学校には校歌がないの」と児童が答えました。その時、校歌を作らなければと決心しました。児童たちの心をひとつにし、成人しても柳橋小学校の卒業生だと自信を持って歌える校歌をと考えました。

作詞は、永年学区にお住まいの田辺利徳先生にお願いしました。田辺先生は園歌校歌の作詞、短歌誌醍醐を主宰、市内の校長をなさいました。柳の並木にそよぐかぜ…清々しい歌詞です。作曲には昭和音大の星出豊先生です。明るい歌しやすい校歌が出来ました。児童卒業生によって歌われるでしょう。

昭和52(1977)年8月の「校歌(案)」には、子どもの成長を願い、いろいろ推敲された跡があります。9月1日(木)の「校歌の説明会」で確認した後、曲がつけられたものと思われます。

校歌を決める際のデモテープが、校長室の耐火ロッカーに残されています。「柳橋小学校校歌A・B」と書かれたカセットテープです。応援歌のような第二校歌も作られたのかとも考えましたが、歌詞は同じで、曲だけ変えたものが2曲録音されています。今でこそ、当たり前のように歌われている校歌ですが、曲には二つの案があったことが分かります。はじめの曲は現在の校歌と同じもので、2曲目は曲の出だしから弾んでいました。この二つの案から、最終的に、はじめのものを校歌として採用したようです。

そして、「柳橋小学校校歌」としてピアノ伴奏も含めて楽譜が出来上がったのが、12月20日(火)のことです。

翌年の1月23日(月)・24日(月)には、子どもたちに校歌のことを説明して配付するとともに、職員で校歌の練習を行っています。子どもたちは、音楽の教科書に校歌を貼り付け、新しくできた自分たちの校歌を一生懸命練習したことでしょう。全校の子どもたちが一堂に会して校歌が歌われたのは、「6年生を送る会」が初めてだったと思われます。その年に卒業した子どもたちは、柳橋小学校の校歌で卒業した最初の卒業生となりました。

ここをクリックすると
デモテープを聴くことができます。

※古いテープで、頭の部分がよれてしまい説明部分を取り出せませんでした。はじめの曲をAとしているものと思われます。